

みらい園「2021年度自己評価に関するアンケート」集計結果

「自己評価に関するアンケート」の実施にあたって、2018年度に質問項目の精選を行い、2019年度に若干の変更を行った。2021年度はこの2019年度のものを踏襲した。内容は次の4項目および「自由記述欄」からなる。

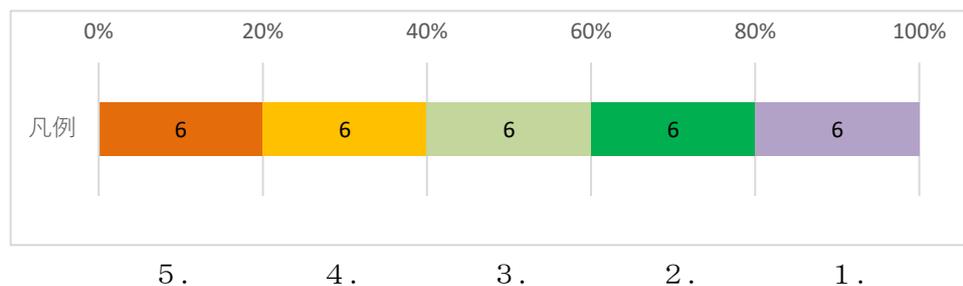
- I 子どもの保育に関して（1～13）
- II 保護者への対応に関して（1～8）
- III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- IV 能力向上の努力に関して（1～9）

それぞれの設問について、次の評点を選択する形で回答を求めた。

- 5. よくできている
- 4. だいたいできている
- 3. あまりできていない
- 2. できていない
- 1. 設問の内容が自分に該当しない

2021年12月下旬にアンケート用紙を全教職員に配布、回収をした。教職員数は29名。回収率は100%である。集計は園長が行った。

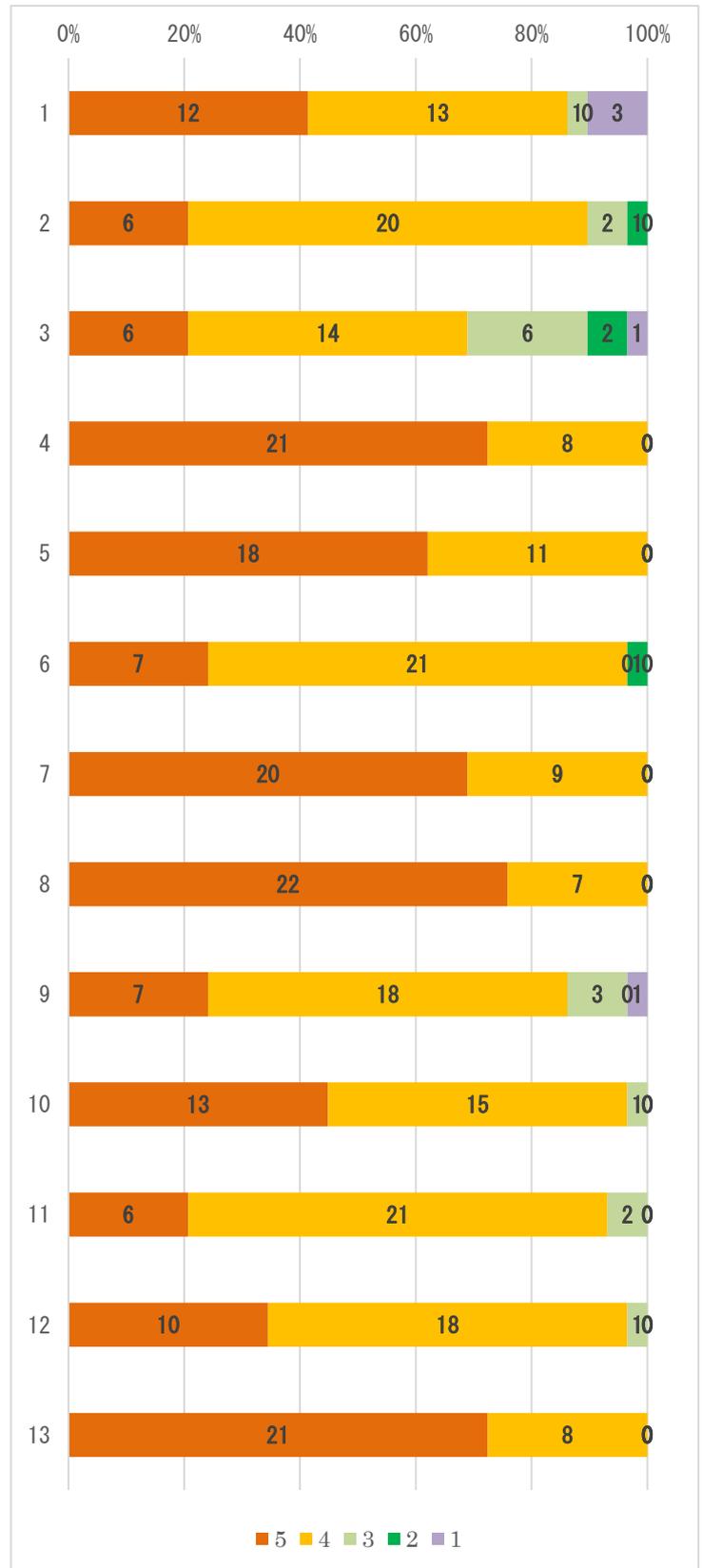
集計グラフ



自己評価アンケート（2021年度）

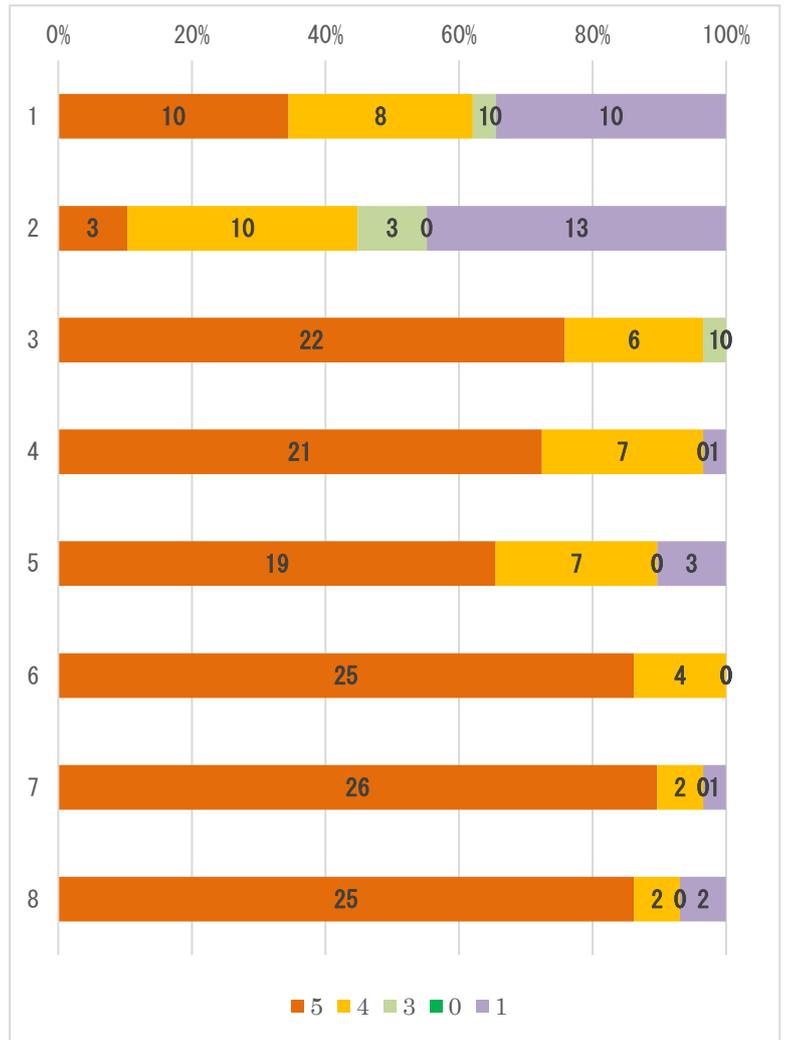
I 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の発育や発達の状態について理解できている。
③子ども一人一人の家庭環境や成育歴などを理解できている。
④子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
⑤それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。
⑥禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度を避けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供している。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪言葉にならないサインをも見逃さず、子どもの基本的欲求が満たされるよう配慮できている。
⑫保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。
⑬どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。



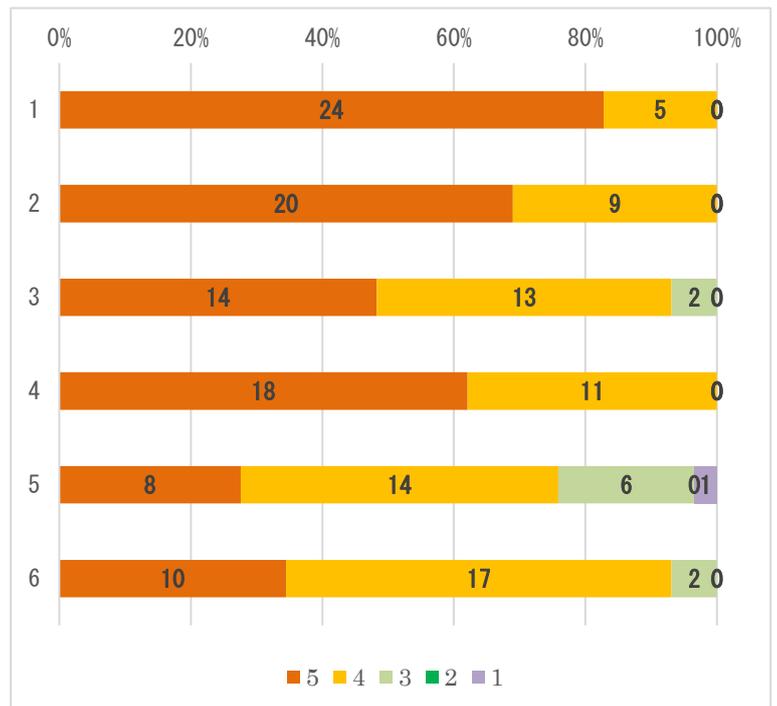
II 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、保護者と直接話したり、電話、連絡帳などを使ったりして十分に伝えられている。
②各家庭での養育方針などについて保護者と話し合っている
③ていねいな言葉遣いを心掛け、友だち同士のよう態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



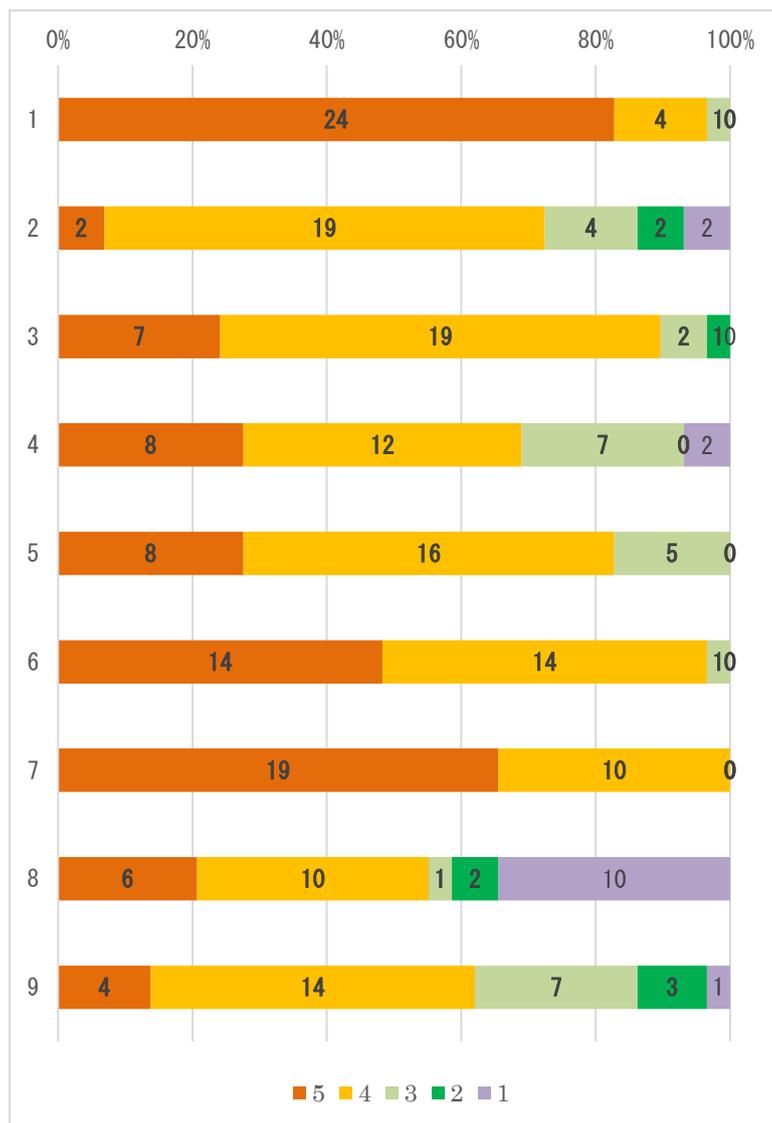
III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。
⑤職場環境の改善に必要と思うことがあれば発言や提案をしている。
⑥色々な考えを受け入れ、多方面から物事を見るようにしている。



IV 能力向上の努力に関して

①保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。
②保育者としての専門知識や技能を十分に備えていると思う。
③園内の遊具や教材について、使用法や危険性について熟知している。
④常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。
⑤子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。
⑥職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気をつけている。
⑧研修会や研究会には事前にその内容を確認し、自己課題をもって参加している。
⑨回覧される月刊「キリスト教保育」や保育の参考文献をよく読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【園長所見】

アンケートを実施した対象人数は29名である。あくまでも「自己評価」のアンケートであり、各教職員が各項目について自分自身をどのように評価するかという数値の集計である。全般的には昨年度のアンケート結果とはほぼ似た数値となっているが、いくつか特徴的なこと、留意しなくてはならないこと等、園長の所見を述べる。

I 子どもの保育に関して

設問の①～③は個々の子どもの理解についてである。③の設問「家庭環境や成育歴の理解」については、肯定的な評価（5ないし4）をつけたものが20名（69%）と、昨年度（53%）より若干上昇した。もっとも、非常勤の保育者を中心に8名（28%）は否定的な評価（3ないし2）をしており、同様のこと

が自由記述からもみてとれることから、常勤・非常勤の保育者間での情報共有が課題である。

設問の④～⑬は子どもとの接し方に関する内容である。昨年度同様、これらの項目はおおむね良好である。

II 保護者への対応について

②「各家庭での養育方針などの話し合い」については肯定的な回答がむしろ少ない状況が昨年同様に見られる（肯定的な回答5ないし4は昨年度40%、今年度45%）。自由記述からも、保護者との話し合いに改善の余地が見られることが窺える。③から⑧の項目については、全体の傾向は昨年と似ているものの、5と4をつけたものの割合はこれら全ての項目で昨年度から増加した。

III 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

昨年同様、全体に良好であることが窺える。⑤「発言や提言をしている」については肯定的な回答（5ないし4）が若干増加（昨年度は60%、今年度は76%）しているものの、まだ否定的な回答も見られるため継続課題である。

IV 能力向上の努力に関して

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、昨年同様、研修に制限があった状況が⑧の回答から窺える。もっとも、今年度は研修のオンライン化が進んだこともあり肯定的な回答（5ないし4）をしたものの割合は40%から55%に増加した。